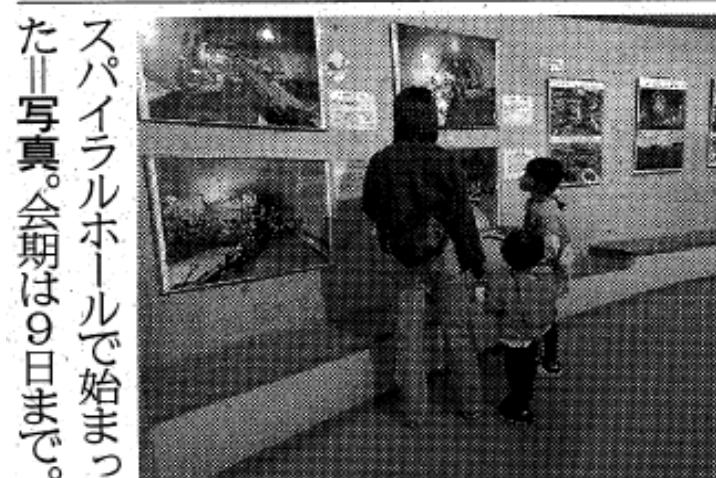


あ・ら・伊達な道の駅で
工事のみりょく写真展
東北建設マネジメント技術協会、9日まで



パネル展は、会員企業の社員らが撮影した道路や橋、トンネル、ダムなどイ
ンフラ整備に関わる作業風景や現場で作業に使う重機などを収めた74点もの写真を展示。宮城県内にある東北整備局の仙台河川国道事務所と北上川下流河川事務所、宮城南部復興事務所、公園事務所も協力し、メン

テナントや災害現場で活躍する車両など24点の写真も並べた。
写真からヒントを得てクイズラリーに挑戦してもらったり、塗り絵コーナーやコンクリートを並べ木琴に見立てて音を出したり工夫しながら、子どもたちに建設業に興味を持つてもらつた。

東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)が広報活動の一環で実施する「工事のみりょく写真展」(共催・東北地方整備局)が1日から宮城県大崎市の「あ・ら・伊達な道の駅」

東北マネ技協らが写真展

あ・ら伊達な道の駅で9日まで

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）と東北地方整備局は、宮城県大崎市の「あ・ら・伊達な道の駅」のスパイラルホールで「工事のみりょく写真展」を開いている=写真。

会場には、会員企業の技術者が現場で撮影した整備中のダムや道路のほか、国土交通省の除雪車といった「道路ではたらく車」などのパネル写真74点を展示。将来の担い手となる子どもたちとその保護者の関心を集めるように、迫力ある現場や児童による見学会の写真には、解説文やクイズなどを添付している。



初日の1日には、東北整備局職員が流域治水の取り組みを紹介する絵本「流域戦隊チスイレンジャー」の紙芝居なども催し、大勢の家族連れでにぎわっていた。

仙台市から訪れた小学2年生の男の子は「見たことがない車（重機）が写っている」と驚きの声を上げていた。

写真展は、同協会の前身である東北技術支援協会が2016年度から建設産業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成を目的に広報活動の一環として始めた。

活動10年目に当たり、中野真哉企画委員長は「発注者の理解・協力を得て、年々内容を充実・拡大してきた。多くの子どもたちに関心を持ってもらえてきたことを実感している。今後も工夫を凝らしていきたい」と話している。会期は9日まで

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）の主催、東北地方整備局の共催による「工事のみりよく写真展 in 宮城」が1日から9日まで宮城県大崎市岩出山の「あ・ら・伊達な道の駅」で開催されている。1日～3日までの3連休は鳴子地区の紅葉が見ごろとあって、1600人以上の観光客でにぎわった。写真展は建設産業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成を目的に毎年行っているイベント。

工事のパネルは道路や橋、トンネル、ダム、砂防施設などの工事現場や航空写真などで、屋上展

3日までの入場者は1日目が448人、2日目が732人、3日目が484人。このうち親子連れは344組だった。

1日には当日限定のイベントとして「流域戦隊治水レンジャーよみきかせ！」を実施。会場ではこのほか、クイズラリーや塗り絵も実施され、参加者にはおもちゃのプレゼントも用意されている。

東北建マネ協 3連休に1600人以上来場

宮城県大崎市
伊達な道の駅 工事のみりよく写真展



工事写真に見入る来場者

望台に続くスロープの壁

面に沿って展示された。

親子連れがスロープに

沿つてゆっくり歩きなが

ら、普段は目にすること

のない大型現場の様子を

感心しながら眺める姿が

みられた。

東北建設マネジメント技術協会(秋葉敏治代表理事)は、大崎市の人・ら・伊達な駅で「工事のみつまく写真展 in 宮城」を開催している。国土交通省東北地方整備局との共催で、初めて取り入れたクイズラリーが特に人気を集め、子どもを中心に多くの人々がクイズに挑戦しながら写真を巡り、工事や建設業への理解を深めていた。写真展の開催期間は9日まで。

東北建マネ協会

写真展は建設産業界のイメージアップと、将来の若い手確保・育成を目的に、広報活動の一環として2016年から毎年開催している。入場は無料。特に子どもたちが建設産業に興味を持てるように毎回工夫を凝らしている。

今回はタムやトンネルなどの構造物、さまざま建設機械、建設工事の施工状況に加え、震災伝承や流域

工事写真展が大好評

クイズラリー
は大当たり

治水の取り組みなど、協会が50枚、国交省が24枚で計74枚の写真パネルを展示。関東・東北豪雨から10年のパネル展も同時開催している。クイズラリーでは「斜面

きげすつたり、深い穴をほるよう工夫した。正解者に

「なん?」名のクイズが書かれた紙を配った。

1日に会場を取材すると、

協会企画委員会で写真パ

ネル展の広報を担当してい

る櫻井一司氏(スタッフ取

締役東北支店長)は、「パネルを見てもう少し掛けじ

大人1244人、子ども4

20人の計1664人が訪

れた。このうち親子は27

4組だった。



興味深げに写真を眺める人々

「流域駆除テスイレンジャー」の読み聞かせ

ントを求めて次々に写真を食い入るように見つめ、大きい」と期待した。
人と熱心に相談しながらクイズに挑戦していた。

1日だけの限定イベントとして、東北地方整備局北上川河川事務所の職員が「流域駆除テスイレンジャー」の読み聞かせを行つたほか、同局東北国営公園事務所の職員がみものく杜の湖畔公園のキャラクター「ジカボ」と「モシカ」を連れて来て、イベントへの参加を促した。

別の女性は、写真展が「スパイアルホール」という上り下りする空間を利用しで開催されていることから「せつかく来たのだからただ上がるよ」だ上るよ」と話した。

別の女性は、写真展が「建設業に興味を持つほしい」と期待した。
子どもを連れて写真展を訪れた女性は「建設機械は見たことがあるけれど実際にどのように使っているか知らないかった。子どもにも分かりやすく、よい展示だと思つ」と話した。

別の女性は、写真展が「スパイアルホール」という上り下りする空間を利用しで開催されていることから「せつかく来たのだからただ上がるよ」ということでクイズラリーに参加しており、建設機械などを覚えて「孫に自慢したい」と笑っていた。

チスイレンジャーの読み聞かせに参加した男の子は「勉強になつて楽しかった」と感想を話した。
1~3日の3日間では、大人1244人、子ども420人の計1664人が訪れた。このうち親子は274組だった。